



大府シティ健康マラソン大会を支える人たち



▲深谷耕一さん(写真右)と大府選手権賞受賞の二人

今月のレポーター

濱島 正幸

桃山町在住。二ツ池セレクトナなどで親子ワークショップなどの活動をしている。



市内の中心部を参加者が駆け抜ける大府市の一大イベント、大府シティ健康マラソン大会。今年も11月12日、秋晴れの空の下、開催され、東は茨城県、西は愛媛県から4532人の方が参加しました。今回で、32回目を迎えましたが、毎回、大会運営には多くの人が携わっています。

長年大会に携わる深谷さんは運営にあたり、一番重要なのは、大会を支えるスタッフと話します。その役割は交通規制や、選手の受け付け、周辺の駐車場の整理、大会記録の処理、負傷者の手当て、走者へのドリンクサービスなど多岐にわたり、大会当日は市内団体や企業などから620人以上の方がスタッフとして参加しています。

なことを話し合ってきたそうです。今大会は「地元からの参加者に、よりスポットを当てたい」との実行委員会の思いから「大府選手権賞」として、クォーターマラソンに参加した市内在住・在勤・在学者のうちで一番速いタイムを記録した男女各1人にリサイクル金メダルが贈呈されました。

今後の展望について深谷さんは「参加者がマラソン以外でも楽しめるようにするなど、より魅力あふれる大会になるといいなと考えています。制限もあり難しいかもしれませんが、できることからはじめ、全国から愛される大会になってほしい」と笑顔を見せます。

▲給水所の様子



認めあおう！ 自分らしさ

青少年女性課 ☎(45)6219

多様なリーダーを生むには



私たちの身の回りには、会社や学校、子ども会やボランティアグループなど、さまざまな団体や組織、グループがあり、そのほとんどにリーダーが存在しています。皆さんの身のまわりでは、どのような方がリーダーをされていますか？

身近な存在である、市内の小中学校長は13人中女性は1人、自治区長も10人中女性は1人です。小中学校には女性教員も多く、また地域の行事にも多くの女性が参加していますが、それらのリーダーの現状は、一定の年代の男性が多いように感じます。同年代、同性同士のリーダーばかりでは、意見が偏りがちです。そこに異世代、異性のリーダーが加わることにより、現在抱えている問題などに対して、新しい視点や発想が生まれ、解決につながる可能性は高くなるのです。

多様なリーダーを増やすためには、あらゆる人が活躍できるような環境づくり、そして、あらゆる人がリーダーとなり得るように人材育成を進めることが必要です。

一方で、リーダーとして責任ある立場になりたがらない女性が多いことも課題として挙げられます。ロールモデルが少ないことが原因とも考えられますが、女性の意識改革を進めることも大切です。

次回は、地域で活躍している女性リーダーに、リーダーになった経緯や、リーダーになるために必要な環境について、具体的にお話を伺います。



消費生活相談

1回だけのお試しのつもりが定期購入に！

■相談事例(40代・女性)

高校生の娘がスマートフォンで、無料(送料300円のみ)と書いてあったサプリメントを申し込んだ。その後、2回目の商品が届き、5千円の振込用紙が入っていた。2回目の商品は未開封である。サイトを確認したら、下の方に、初回の無料分を含めて3回購入が条件と記載があったが、やめることはできないか。



■事例に関するアドバイス

- 販売業者に書面で「未成年者取り消し」を主張し、2回目は未開封で返品する旨を通知する方法があります。
- 通信販売はクーリング・オフ制度の適用はありません。販売業者が返品特約を定めていれば、それに従うこととなります。返品について定めがない場合は、商品が届いた日を含めて8日間は返品することができます。ただし、クーリング・オフではないため、送料は消費者が負担することとなります。
- 「お試し価格」という言葉に惑わされて、すぐに申し込むのではなく、定期購入が条件になっていないか、定期購入の期間内に解約できるか、また解約の申出方法や申出先について表示されているかなど、注文する前に十分確認しましょう。文字の表示が小さいスマートフォンからの注文は特に注意が必要です。

商工労政課 ☎(45)6227 ■消費者ホットライン ☎188 ■市消費生活センター ☎(45)4538



日本で働くようになって、不思議なことに気づきました。それは、日本の多くの都市に「国際交流協会」があるということです。私の母国オーストラリアは多国籍・多文化社会であるため、そういった団体はありませんでした。ちなみに、ここ大府市にも国際交流協会があります。大府市国際交流協会では、外国語での相談を受け付けたり、日本語教室を開催したり、外国人と日本人が交流できるようなイベントを行ったりしています。



▲大府市国際交流協会主催のイベントに参加した人たち

大府市では、近年、ベトナムやインドネシアなどの出身者が増えましたが、これらの国の人たちのネットワークはまだそれほど確立されていないようです。言葉や文化の分からない異国の地で、同じ国同士や外国人同士の仲間がいれば、心強いのではないのでしょうか。そんな仲間を見つけるには、国際交流協会がとても役に立ちます。国際交流協会の主催する日本語教室やイベントに参加することで、いろいろな国籍の人と知り合うことができますし、日本人と親しくなるきっかけになるかもしれません。お近くに外国人の方がいたら、ぜひ国際交流協会を紹介してあげてください。

料金受取人払郵便



差出有効期限
平成30年4月30日まで
(切手を貼らずに
お出してください)

郵便はがき

4 7 4 8 7 9 0

〈受取人〉
大府市役所
広報広聴課 行



広報おおぶ「みんなの声」専用はがき

年齢 / 歳 性別 / 男・女

広報おおぶの今後の編集や企画に生かしていきたいと思っています。
ご意見をお聞かせください。
広報広聴課 ☎(45)6214

「みんなの声」使い方

- 1 広報紙から切り取ってください。
- 2 アンケート欄に記入してください。
- 3 半分に折り内側全面をのり付けしてください。
- 4 ポストに投函してください。

※広報おおぶに関するアンケートは、市ホームページでもお答えいただくことができます。

広報おおぶは1日号と15日号の月2回発行していますが、今年度より、8月と1月は合併号とし、月1回発行にしました。

- Q1 広報おおぶの発行回数についてどう思いますか？
また、なぜそう思いますか？ 理由をお聞かせください。
- ①月1回が良い ②月2回が良い ③どちらでも良い

理由

- Q2 今後取り上げてほしい企画や広報おおぶへのご意見・ご要望をお聞かせください。

破線に沿って切りとり、半分に折り、内側全面をのり付けして投函してください。

あふれる感謝 共通の趣味で歩んだ50年



辻面博之さん・典子さん

(80歳・74歳、長草町)

入籍：昭和42年11月17日
 (寄り添い50年)

◆馴れ初めと、お互いの最初の印象は。

【博之】2人とも奈良生まれで、見合いを何度かして、何でかお母さんと一緒になることになりました(笑)。2~3回会う内に、堅実で、よく家庭を守ってくれそうな人だなと思いました。

【典子】今も昔も変わらず素敵な人です。

◆大府にはいつ頃？

伊勢湾台風の時。勤め先の建設会社でこの地域の復興作業を忙しくしていたら、縁あってそのまま根付いちゃった。

◆金婚の節目を機にやりたいことは。

2人でゆっくり旅行に行きたいですね。日帰りツアーはよく行くんです。いつもお母さんが季節に合ったプランを見繕ってくれる。先日は、伊吹山に行ってきました。

◆いきがいを教えてください。

ゴルフですね。お母さんも50歳になったときに始めました。それぞれの兄弟会で年1回ずつ、主催しています。この集まりでは本当に絆を深めることができている。ちなみにお母さんの腕前は、私より良いですよ。

◆夫婦円満の秘訣は。

若い頃仕事オンリーだったので、家庭も子育てもお母さんに任せっぱなしだった。だから円満どころか、けんかもしばしばしましたよ。お母さんはこう見えて結構強情だし、私も男の意地があるから謝らない(笑)。だから仲直りはいつも「自然解凍」だったね。それでも今となっては本当に感謝。これまで健康でこれたのはお母さんのおかげ。50年、短かったね。

みんなに
ごあいさつ

3歳以下のおおぶキッズをご紹介！

掲載希望の方は広報広聴課へご連絡ください。

広報広聴課 ☎(45)6214



しょうま
山岡 青真さん

平成29年3月21日生まれ
 義直さん(父) 味里さん(母)

こんにちは、僕は小さな探検家、しょうまです。まだハイハイはできないけれど、最近は動き回ってお家の中をいろいろ散策しています。お母さんは心配で目が離せないみたい！



わたる
近藤 渉さん

平成27年5月16日生まれ
 功さん(父) 由貴さん(母)

可愛い笑顔でイタズラをする、ポテトが大好きな渉です。特技は愛想を振りまく事(笑)。毎日お姉ちゃんとケンカをするけれど、すぐに仲直り！たくましく育ててね♡

広報おおぶの紙面を飾ってくださる方を大募集！

募集しているのは、「金婚カンコン」「みんなにごあいさつ」「表紙などの読者モデル」。掲載された方には、掲載した写真を、広報おおぶの表紙風に加工してプレゼント。記念に1枚いかがですか？ 詳細は市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 広報広聴課 ☎(45)6214



周りに支えられて、初めて手にした日本一 道脇 大斗さん

9月に大阪で開催された全日本実業団対抗陸上競技選手権大会走り高跳びで優勝した、道脇大斗さん。道脇さんは、東山小学校の教員でもあり、大府市総合型地域スポーツクラブOBUEニスポアスリートクラブのコーチでもあります。

決勝では、ジャンプオフ(決定戦)の末、昨年の優勝者との一騎打ちを制し、2.15mを跳んだの優勝。「格上の選手相手だったので力が入りましたが、緊張せずに跳ぶことができました。優勝できると思っていなかったので、うれしかった」と笑顔で振り返ります。

小学4年生から陸上を始め、先輩のジャンプに憧れて走り高跳びを始めた道脇さん。教員になつてからも、エニスポで子どもたちに指導しながら、楽しく陸上を続けています。

社会人になった今でも記録を伸ばし続けている道脇さんですが、「記録が3センチ伸びなかった高校時代がきっかけ」と振り返ります。「高校時代は、決められた練習メニューをこなすだけでした。大学ではメ

ニューを自分で考えたり、空いた時間にトレーニングをするようになって変わりました」と自分で考えることの大切さを話します。「小学生にゼロから教えるのは難しいですが、それが自分の高跳びの勉強になりました」と教員になり、練習がままならない中でも記録を伸ばせた理由を分析します。

道脇さんの自己ベストは2.16m。今後の夢は「毎年5センチずつ記録を伸ばして派遣設定記録の2.13mを跳び、東京オリンピックに出場したい」と力強く話します。教え子からのエールを受けながら、夢のオリンピック出場を目指します。



© 一般社団法人日本実業団陸上競技連盟

中学校で行われた市特産品「木の山芋」を使った調理実習の取材に行きました。地元農家の方も招かれ「[畑のウナギ]と呼ばれる栄養満点の木の山芋ですが、栄養を土壌から吸収しすぎるため、連作ができないんです」と説明していました。試食をいただきながら、「栄養を吸収しすぎないようにしなければ」とお腹をさする自分がいました。(太)